

ほっとケーキ だより

25号

2020年
11月1日

発行：
親の会「ほっとケーキ」

親の会活動日：月1回 第二水曜日14:00～16:00

フリースペース開催日：毎週月曜日・水曜日12:30～16:30

開催場所：いずれも佐賀市青少年センター 佐賀市松原2-2-27パルーンミュージアム3階

郵便物送付先：〒840-0826 佐賀市白山2丁目1-12 佐賀商工ビル7階 市民活動プラザ内レター
ケースNo. 24 親の会「ほっとケーキ」

電話：080-4310-3277 E-mail: hotcake06@hotmail.co.jp

HP: <https://oyanokaihotcake.jimdofree.com/>



フリースペース再開しました！！

皆様コロナ禍中、マスク・手洗いなど気を付けながらですが、お元気でお過ごしのこと
と思います。いつもご支援・ご協力ありがとうございます。

3月後半から休止していた親の会は6月から再開、フリースペース「ハッピービバーク」も、やっと9月から再開しました。現在は、親の個別相談や子どもの個別活動にも応じています。

再開するにあたり、利用者には、マスク・検温・手洗いを励行してもらい、三密を避けながら開いています。半年余り休んでいましたが、再開と同時にたくさん子どもたちが集まってくれ、嬉しい限りでした。人と繋がりたいという思いで、待ってくれていたのでしょうか。

そして、月曜日の昼食をどうするか迷ったのですが、一緒にごはんを食べることは外せないと考え、これまでは隣の和室で肩寄せ合っただけの食事風景でしたが、広い調理室で離れて食べることにしました。調理もこれまで子どもたちが手伝ってましたが、感染に配慮して今はスタッフだけで作っています。料理はいつも美味しいと評判です。

先日、県外に引っ越した小学生が久しぶりに遊びに来てくれました。お昼も一緒に食べ、大きいお兄ちゃんといつも通りゲームする姿を見て、いいなあー！と改めて感慨深いものがありました。

この夏は、みんなが楽しみにしている合宿も辞めざるを得ませんでした。そんな中、せめて遠足に行きたいね！という話になり、お弁当を用意して自転車で出かけることにしています。

実は、かなりの不安の中再開したのですが、半月余り休んだことで、さらに人が集う場を続けることの大切さを感じています。これは利用者だけでなく、私たちスタッフにとってもエネルギーをもらう場だったのです。

さて、コロナ禍中で、経済的に苦しくなった個人経営の方や家庭が出てきましたが、フリースペース利用の子ども家庭にも少なからず影響が出てきています。そこで、スタッフで別の方法がないか考え、利用者の負担を減らすため利用料としては頂かず、賛助会費として頂くことにしました。

以上のような事情なので、大変な思いで暮らしていらっしゃる方が多いと思われますが、みなさまこれからもご支援・ご協力よろしく願いいたします。

親の会「ほっとケーキ」代表 山口由美子

フリースペースの様子から



佐賀災害支援プラットフォーム様から、マスクの支援をいただきました。フリースペースで活用しています。ありがとうございます。



食事の時は、ほどよい距離をとっています。



チキンカツ定食です。毎週月曜日の昼食は、美味しいと評判です。

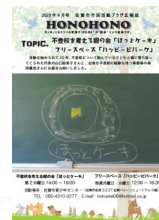


10月19日 遠足で、みんなで森林公園に行きました。お弁当を食べてから、のんびりしたり、ボール遊びをしました。心地よい風の中楽しくすごしました。

みかんの木のオーナーの古川辰馬さんからたくさんのミカンをいただきました。ありがとうございます。

（古川さんは、エスカルゴサイクリングクラブのメンバーで、退職後に自転車一人旅を始められ、今年の10月で全国47都道府県制覇を達成されています。）

佐賀市市民活動プラザが発行する冊子「HONOHONO」に 親の会「ほっとケーキ」フリースペース ハッピービバーク が紹介されました！



「HONOHONO」 2020年9月号より

TOPIC 不登校を考える親の会「ほっとケーキ」

設立の経緯やキッカケについて教えてください

山口（以下「山」）…2001年7月に不登校の子どもの会を持つ親の会を立ち上げました。そのキッカケとなった一つが、2000年に佐賀で起きた、西鉄バスジャック事件なんです。私がその事件の被害者の一人で、当時、被害にあった事でカウンセリングを受けました。実は、私の長女も、事件の前から不登校の時期があり、適応指導教室に通っていたんです。娘には、不登校になっても居場所があったから良かったんですが、その時のカウンセリングの先生から「あの子（加害者）にも居場所があればよかったね」というお話を聞き、私も居場所を作りたいと考えました。現在スタッフをしている一人が、バスジャックの事件後に、「実は、うちの子どもも不登校で…」ってお話をしてくださったんです。そこで、私以外にも悩んでいる人がいて、同じ悩みを持った皆で集まってお話をしたいと思い、立ち上げました。



不登校を考える親の会「ほっとケーキ」代表 山口由美子氏
事務局 森田義也氏

子どもの居場所も立ち上げられていますが、そこらはどういった経緯だったんですか？

山…親の会を立ち上げて1年後くらいに、家庭が居場所になつていくけど、おじいちゃんやおばあちゃんから不登校を理解してもらえないお子さんがいたんです。その子にどこか居場所があったらいいねって話になり、団体としてもお金がないから、使っていないお家を無償で借りれることになり、そこを居場所にするようになったのが、ハッピービバークの始まりです。



現在、事務局として関わられている森田さんですが、団体と関わったキッカケは何だったんですか？

森田（以下「森」）…僕も不登校経験がありまして、そんなに外に出ていなかったんです。だけど、18歳になった時かな、そろそろ動き出さないとなつて思っていた時、初めて山口さんに出会いました。少しして、山口さんから「ハッピービバークを始めるからよかつたら来てみない？」と誘ってもらい、行くところもなかったし行ってみようかなという感じで関わり始めました。

山…こつちも、不登校の子の居場所なのに20歳の青年が来てどうしようかって、スタッフみんなで悩んだんですよ（笑）。

森…利用するようになって1、2年くらいたつた頃、それこそ年齢的に大人なので、スタッフにならないかという話をいただいたんですけど、まだスタッフとして働く自信がなくて、最初は断つたんです。その後、色んな事を経験していつて、しばらくたつて自分から「スタッフとしてやらせてください」と伝えました。

現在の活動について、詳しく教えてください。



山…新型コロナウイルスの影響で、親の会も居場所も3月からお休みしています。お休みする前の親の会は、第2水曜日のお昼と、第4土曜日の夜の月2回を開催していました。

森…ハッピービバークという居場所の基本的な活動は、青少年センターの和室と、隣にある調理室を、毎週月曜と水曜に借りて活動していました。毎週月曜日は、みんなでお昼ご飯を作って食べていました。

山…料理も、作りたい子は手伝うし、作りたくない子は食べるだけ。そこ

は自由で、基本的に強制はしません。

森…和室では、ゲームをやったり、絵を描いたり。本当に自由に過ごしている場です。特別縛りもなく、活動の時間内であればいつ来ても、いつ帰ってもいいようにしていました。

山…親の会は6月から再開しましたけど、夜の親の会は休んでいます。ハッピービバークは、コロナの感染予防対策を考えながら、9月から活動を始めようと準備をしています。ただ、年に1回、夏合宿をしていたんです。それが、今年は中止になりそうに残念です。子ども達もすごく楽しみにしていたので。

合宿もされていたんですね！

森…合宿自体は、もう10年以上前からやっていますよ。



山…山の中に宿泊施設があつて、1団体だけなので、騒いでも、花火を上げてても、誰からも何も言われないし、徹夜したって良いんです。森…夕飯はバーベキューで、子ど

も達が火おこしから準備したり、親もスタッフもノータッチで、この夏合宿の時は子ども達で何でもやるんです。すつごく楽しいですよ。去年もすごい盛り上がりだったね。川遊びとか。

自然と触れ合う機会も、今はなかなかないですしね！

山…朝早くおきて虫取りする子、昼まで寝てる子、様々ですよ。お昼ご飯の時には目をこすりながら、そうめん流しに参加する子もいますよ(笑)。ハッピービバークを卒業した子とか、仕事してる子も休みをとって来てくれるんです。

森…ただ、残念ですけど、今のところ合宿の代わりの事などは考えていないですね。

子ども達も残念でしょうね。では、今後の活動目標と予定について教えてください。

山…私個人としては、学校が子ども一人一人を大事に教育してくれば、この会はなくなってもいいと思っています。でも、そんな状況でもないのでもまだですがね。活動目標ではないですが、ここでは、ゆつくり時間をかけて遊びながら、人と人との関係を楽しんでほしいと思っています。

森…僕の想いになっちゃいますけど、フリースペース、子どもの居場所などが、すごく自由な場所って言うっても、これも本当に難しい話で。例えば、これから新しくそういった『居場所』があとこちで出ていく。そうなった時に、うちがやってきた事をどう伝えていくか。表現が難しいですが、不登校の子どもの支援って、支援という感じがあまりないです。『学校に行けるようになるまで一緒に支えましょう！』っていうことでも無いわけですね。

基本的に『自由に過ごしていい場所』。その考え方というか、理念とか理想とは違う気がしますけど、そこを伝えていかないと、終わってしまうような気がします。

山…それくらい大事に思ってるんだね。私達も、別に何かをお手本にしたわけじゃないけど、子ども達から学んできたこと、それしかないよね。子ども達が『居場所』に何を求めているのかって感じながら、運営していけたらと、私はそう思っています。



気に入った一言 “遊”

ほっといて。

でもそばにいて、黙ってて。(吉川清子)

いい親子関係・絆な夫婦・大事な親友。

そうなれる秘訣がこれですね。

「信じることにするわ」と反抗期の娘に言った日を思い出します。

朝日新聞 2016. 5. 30

“加藤登紀子のひらり一言 “より



個別の対応もしています。

親の会「ほっとケーキ」では、月1回の親の会、月・水曜日のフリースペース以外に、個別の親への相談、個別の子どもたちとの活動対応もしています。

親の会の時間に都合がつかない方等には、原則スタッフ2名でお話を聞くことができます。子ども対象では、青少年センターで料理やお菓子づくりをいっしょにしています。スタッフの都合に限りはありますが、ゲームとか工作とかもできますので、まずは連絡をしてみてください。

電話：080-4310-3277 E-mail: hotcake06@hotmail.co.jp